

◆ 今ここで頑張っています ◆

スマイルカーブの右端で

日本電信電話株式会社 新ビジネス推進室 2020担当
山田賀子



逢坂・本間研で発光素子やそのデバイス化を研究していた1990年代半ば。インターネットサービスが誕生する中、光ファイバ網で世界最高の情報通信環境を作ろうとしていたNTTに世界最高レベルの光の研究環境を期待して入社したが、新入社員研修で会社を支える数多の職域に触れ、研究ではなく、お客さまの「ありがとう」に直接触れることができる仕事への配属を希望した。以来、約20年。通信の世界の競争環境は時々刻々とかつ劇的に変化し、インフラである通信網の主役は光ファイバを通り過ぎ今や無線となっている。NTTという会社自体も種々の転身を経て、組織や事業モデルを変遷させ、私自身も転職を志望したわけでもないのに、孫会社への出向などもあり、現職は5社目、9箇所目の職場となる。

今現在の私のミッションは、東京で行われる2020年のビックイベントを契機としたビジネス獲得とサービス創造を企図して新設された組織において、大会組織委員会や国・都・各種団体・他のスポンサー企業等との渉外的営業窓口を担うと共に、地方創生も念頭においたNTT全体の営業成果に資する短中期施策の立案とその実行の仕掛け作りである。最初の重要タスクであったスポンサー契約締結を終え、これから！というときに、競技場やエンブレムなどがなぜか世間を騒がすニュースとなった。関係者の一人として心乱れることもあるが、報道の裏側にある目の前の事実を信じ、いわゆる大会レガシー（遺産）として50年後の未来に何を遺せるのかを真剣に考えながら日々奔走している。

この原稿を書きながらも、頭から離れない課題のひとつは、デジタルサイネージとよばれる街中の電子掲示板に関する新たなビジネスモデルづくりである。既存のビジネス領域だがいま

ひとつスケールしない。2020年に向けての観光者対応もあり、これから多くのデジタルサイネージが設置されていくことになると言われているが、発信者ニーズである広告ビジネスありきではなく、情報の受信者が受益者となりえるビジネスモデルに変えていかないと、存在意義そのものが問われてしまう。簡単そうで意外と難しく、手をつけられずにきたのだが、先日ふと、こういう大型の平面ディスプレイを実現することを夢想着光のデバイス研究をやっていたことを思い出した。特に自分の研究成果がディスプレイに組み込まれているわけではないが、いわゆるスマイルカーブの両端にかかわることができるというのは、そう滅多にあることではない。今、この課題に取り組むことで、カーブの右側を引き上げる役割を担うことができるかもしれないと、あらためて気持ちのスイッチを入れることができた。この記事が掲載される頃までに、答えと成果を出せるように取り組んでみたい。

プライベートでは、今年の4月から僧侶となった夫と共に、夫の実家でもある寺に転居した。寺側の視点で言えば、なぜか外で働いている困った奥さんである。当然ながら檀家さんの顔もなかなか覚えられず、不出来きわまりない現状であるが、足を運んでくれる方々が笑顔になれるようなお寺を目指して、自分にできることを少しずつやっていければと思う。もうすぐ3歳になる一人娘とは寝ている時間を除くと日に2、3時間しか一緒にいられないのだが、たくさんの人たちに支えられ、健やかに明るく育ってくれている。

彼女が住んでいるであろう50年後の東京・日本が素敵なスマイルカーブと笑顔で満たされるように、まさに今ここで頑張りたい。